

# 道教組

2019年9月9日発行

DOKYOSO NEWS VOL.555

教職員とその家族を守る  
全教自動車保険

## 5つの特徴

- ①無事故割引を引き継ぎます
- ②団体扱い割引を10%に拡大
- ③家族の車もまとめるとさらに割引
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

有限会社 川上企画

(道教組指定代理店)

札幌市中央区大通西12丁目4-78  
TEL:0120-222-789 FAX:011-218-2472



## 道教組第32回中央委員会

### 道教組運動発展の展望を共有し、「仲間」の輪を大きく広げよう!

9月7日に、道教組中央委員会を開催し、改訂学習指導要領への移行が始まって以降の教育情勢をめぐるとりくみ、職場や市民と共同した生活と権利を守るとりくみ、組織拡大・強化のとりくみなどについて議論を交わし、当面の重点課題について確認しました。また、この間議論を進めてきた、道高教組との一層の運動の共同についても、経過の報告をしました。

中央委員、特別中央委員による15本の討論のほか、北海道子どもセンター柳事務局長と、道教組共済会小西書記が特別発言をしました。

### 川村委員長あいさつ

「力合わせ」をキーワードに、この間の道教組運動を振り返る

重要性も困難さも増している諸課題に組合員が各単組連絡会に結集し、日々奮闘されていることに敬意と感謝を申したい。

この間の取り組みを「力合わせ」をキーワードに振り返ってみよう。

○私たちの組合を語り合い、「力合わせ」ができる仲間を増やそう

第一に、まだ私たちの組合に迎え入れることができていない教職員との力あわせについて。組合員拡大の課題を、3月の定期大会、4月の単組代表者会議においても多

くの時間を割いて論議し、組合づくりのためのリーフレットを作成して、組織拡大を真正面に据えた論議を呼びかけた。この取り組みの特徴は、自分たちの足下をしっかり見つめることから始めようということ。「力合わせ」ができる仲間を増やそう。

○道高教組との「力合わせ」を一層前進させよう

第二に、同じ全教の仲間である道高教組との力合わせについて。道高教組とは多くの取り組みを共同し、ここ数年「高教組との協力共同の取り組みの一層の前進」を掲げ、運動を進めてきた。「どう展望を開いていけるかが重要」という、私たちが道教組を結成した時の熱い思いや覚悟が重要で、様々な形での協力共同を一層前進させよう。

○本物の「働き方改革」を進める「力合わせ」を

第三に、国民的な大きな関心事になっている、教職員の「働き方改革」について。全教では「せんせいふやそうキャンペーン」に取り組み、道労連は「学校総がかり」運動を提起して後押ししている。この課題は、学校の先生から保護者や地域、多くの労働組合や民主団体、更には行政も含めた壮大な力合わせを展望し、取り組むことが重要。その広がりを作るには、教職員の長時間過密労働の問題を、労働条件の問題であるにとどまらず、教育の問題に直結する国民的課題に押し上げることがカギとなる。教職員の長時間過密労働の解決には、本務を担う教員を増やすことにあることは明白だ。

○中央委員会の論議をもとに、各地で道教組らしい運動を

課題は山積し、簡単には解決を見ないものもたくさんあるが、その困難さも含めて論議したことを持ち帰って、各地で道教組らしい運動に旺盛にとりくもう。

**中央委員会の討論から  
道教組運動について、  
15本の活発な討論**



**高橋勇中央委員（胆振）**

伊達市150年記念事業としてリレーの「ギネス記録に挑戦」がトップダウンで下された。市民団体と共同して要請書を提出し、中止とはならなかったが、改善もあった。総括のとりにくみには、北教組との共同も視野に進めている。



**阿部伸郎中央委員（渡島）**

プログラミング教育の研究會に参加し、職場の研修で報告した。導入の背景として、ソサエティ5.0の「人材育成」の意図が見え、同僚からも、公教育での「人材育成」に疑問の声があった。したたかな実践化を模索している。



**佐々木一次中央委員（札幌）**

札幌市教委は「学校規模適正化」の名の下、学校の統廃合を進めている。小学校の4割が統廃合の危機。検討委員会は非公開で、検討内容は地域住民にも知らされない。全教札幌は市教委に要望書を提出し、話し合いを持った。



**早矢仕郁雄中央委員（宗谷）**

猿払支部では、毎年、分会の要求を束ねて要望書を作成し、教育長に提出している。支援員の各校配置など人的配置の要求にあたって、私たちも定数法など制度の学習が必要だと感じる。この学習を、今後の道教組のとりにくみの土台としてはどうか。



**寺川真幸中央委員（根室）**

第55回矢白別平和盆おどりが行われた。設営はいつも同じメンバーで、若い人にも参加してほしい。全国の仲間との交流が魅力。大工仕事も覚えた。実弾射撃訓練の監視にも参加。「若い監視隊員が活躍」と紹介された。



**中川真一中央委員（檜山）**

せたなや乙部の支部集會を参考に、上ノ国支部も全員集會を始め、これまで5回実施された。会議ではそれぞれの職場の状況や悩みも交流される。これからも、支部集會での交流を大切に、教研活動にもつなげていきたい。



**千種一郎中央委員（網走）**

夏の合宿研で、道教組リーフレットを使って学習した。「仲間With you」という言葉が好き。周りにはたくさん仲間がいて、「あなた」といっしょに解決したい問題がある。「ここがおかしい」のアンケートにもとりにくむ。



**釜范圭中央委員（釧路）**

今年から全員集會やブック集會を実施。連続教育講座では3名の青年を講師に招いた。夏休みの組織拡大は、対象者に2名以上の担当者をつけて実施。原水禁大会には高校生を送り出した。日常の平和教育の実践も追求したい。



**能條知子中央委員（空知）**

メールリングリストでつながっているが、それぞれの組合員の多忙感も見える。支部会議の他に年に数回の全員集會を行っているが、顔を見て話して、



元気をもらえる。空知合研では、労連からの依頼で、教職員の働き方を伝える。

**谷幸司中央委員（日高）**

組合への新規加入があった。職場での悩みの相談が組合員にあり、加入へとつながった。職場の厳しさが増す中、職場の信頼をつくるのが大事。浦河・様似の巡回指導教諭によるサポートには助かっている。



**中村哲也中央委員（上川）**

6月に上川・宗谷の共催でCO（コミュニティ・オーガナイズング）学習会を旭川で実施した。先日は3名で東京の学習会にも参加した。この手法は組合にとって大変有効で、さらに発展できる予感がある。10月にも学習会を実施する。



**古川正史中央委員（宗谷）**

「全教北海道への結集」の議論について、いっしょにどんな運動をするかが大事。道教組アプリを提案し、宗谷でもSNSの活用を工夫している。全教にアプリ製作を呼びかけたい。アプリ・SNSを活用し、仲間と手を取り合いたい。



**永島敦史特別中央委員（事務職員部）**

6月に、初めて高教組と共同の学習会を実施した。8月の全国事務研は、長崎での開催で、被爆者の話に平和への思いを強くした。会場で青年とつながった。青年には「いっしょにやろう！」と力強く語ることが大事。



**押見みゆき特別中央委員（養護教員部）**

新規加入をすすめるために、宗谷では地図や顔写真入りのおたよりを作成し、1名加入した。富山の全教養教部夏学には5名

参加した。8月に道教委へ5962筆の署名を提出し、定数改善、学校環境改善を求め懇談した。

**山本佳奈子特別中央委員（女性部）**

女性部総会では各単組のとりにくみを交流した。8月の全道学習交流集會は養教部と共催した。弁護士を講師にLGBTの権利を学び、学校での受け入れ体制について、はっとさせられた。女性部アンケートは、心身の疲れ、ストレスを中心に、構成を見直した。



**○討論のまとめ（斎藤書記長）**

様々な教育課題について、各地で、職場、保護者、市民との共同が広がっている。新指導要領や学校スタンダード、「学力向上」政策の問題点、職場の困難さも討論で交流された。長時間過密労働解消や、教育全国署名など、今後も、子どもを中心に、広範な共同をつくり出すことが重要だ。

安倍9条改憲への執念が続く中、世論と運動の力で改憲スケジュール通りには進ませていない。一人ひとりが主権者として声を上げること、教職員として平和教育を追求することともに、平和への思いを若い人たちにもつないでいく意識を大切にしたい。

組織拡大、組合づくりのとりにくみは、組合とは何か、自分に落とし込んで実感することから、すべての組合員の主体的なとりにくみが生まれる。「いっしょにやろう！」と自信を持って声掛けができるように、リーフレットを活用して語り合おう。組合のつながりを補強し、運動をつくり出す情宣活動、SNSの活用も工夫したい。道教組運動発展への展望を、語り合い、共有し、力強く前に進めよう。